

企画概要

目的は、経営学検定試験初級を受ける人が集まり、試験合格の為の勉強を協力して行うことである。

狙いは、ただ試験に対して知識を増やしていくのではなく、目標に向かうために協力するとはどういうことかを学ぶことである。

具体的には、経営学検定試験公式テキストを使用し、交代して本の要約、パワーポイントなど資料を作成し、プレゼンをする。その後学んだ事に対してディスカッションを行い、知識の関連性を持たせる。

第8回初級試験実施の11月26日(日)まで、毎週水曜日 16:45～19:00 にパワーポイントの使える教室に集まり勉強をする。

参加者は先着20名までとする。

活動報告

勉強会回数：計8回

勉強会時間：16:45～19:00

勉強会内容：模擬テスト、講義、質疑応答

16:45 講義開始

17:45 休憩

17:50 テスト

18:10 テスト解説

18:30 質疑応答

19:00 終了

資料作成数：28(ワード、エクセル、パワーポイント)

合否結果：8名受験、3名合格。合格点は70点。

合格	2回生	法学部	84点
	2回生	経営学部	76点
	2回生	経営学部	72点
不合格	4回生	理学部	68点
	3回生	経営学部	68点
	2回生	外国語学部	64点
	2回生	文化学部	62点
	2回生	外国語学部	58点

諸費用：

経営学検定試験公式テキスト1	経営学の基本	11冊	
経営学検定試験公式テキスト	試験ガイド&キーワード集	11冊	
経営学検定試験公式テキスト	過去問題・回答・解説	11冊	計 68607 円
プリント用紙 500枚 2セット	340円×2		680円
コピーカード 50度数			500円
合計			69787円

結果報告

試験勉強に対する得手不得手・初期段階の経営知識格差により、一方が教え、一方が教えられるという関係になった。しかし、資料作成と講義は皆が行ったのでその点で協力は出来た。

能動的に動く人と、受動的に動く人に分かれた。指示を上手く出せば効率よく廻るが、指示が上手くない時は活動が停滞した。受動的な協力が得られた。

初めてのプレゼンに対し戸惑う事はあったものの、自分がプレゼンした箇所はより覚えやすかったようである。事前の下調べの不足により、必ずしも講義者が質疑に対し応答出来たわけではない。

合計8回行った。毎回6、7名が平均して参加した。クラブが重なるなどし、全員がいつも出席したわけではないが、出席率自体は80%を超えたように思う。

初めは11人集まった。募集期間が短い、ビラが分かりにくいなど宣伝方法に問題があった為、当初の予定人数より9名少なかった。この11名のうち、2名が宣伝によるもので、残りは今枝の知り合いである。途中メンバーの留学生2名が金銭的理由で脱退し、1名がテストと合宿が重なった為、テストを受けられなかった。

まとめ

試験に向けて勉強するとは、目標と現状のギャップをどのような期間、方法で埋めるかということである。

集団で勉強する時は、1の項目を全員が把握する必要がある。

個人が行動を行う際、モチベーションは極めて重要である。モチベーションを喚起する為には、自らの行動に確固たる理由を持つ必要がある。その為には、明確な目標を持つことだ。

モチベーション維持の為には、小さな成功経験が欠かせない。「やった！出来た！」という感動を、毎回持つことだ。

集団においてのモチベーションの起こり方に、役割分担がある。自らの行動を認めて貰うと、モチベーションが上がる。集団に必要とされる事で、集団でいようとする働きが起こる。

集団で行動を行う際、方向性が重要となる。各人の向かうところが同じである限り、チームは協力して行動出来る。ビジョンの共有は方向性を定める効果がある。チームで動く時、個々の動きに差があるよりも、均等に力を発揮した方が集団としては、強力である。一人が突出しているだけでは、集団として動いているとは言えない。

一丸となって一つの目標に向かう時、集団は最大の力を発揮する。

今後の展望

明確なビジョンを示し、全員で共有する事。

目標と現状を正確に把握し、そのギャップを埋める為の期間・方法を皆で共有する事。

メンバー全員が均等な仕事量になるよう調整する事。